

Docket No.: 50195-280



PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of

Satoru HIROSE, et al.

Serial No.: 09/963,565

Filed: September 27, 2001

Group Art Unit: 2673

Examiner:

For: DISPLAY DEVICE WITH SCREEN HAVING CURVED SURFACE

TRANSMITTAL OF CERTIFIED PRIORITY DOCUMENT

Honorable Commissioner for Patents and Trademarks
Washington, D. C. 20231

Sir:

At the time the above application was filed, priority was claimed based on the following application:

Japanese Patent Application No. 2000-301154, filed September 29, 2000

A copy of each priority application listed above is enclosed.

Respectfully submitted,

MCDERMOTT, WILL & EMERY

Robert L. Price
Registration No. 22,685

600 13th Street, N.W.
Washington, DC 20005-3096
(202) 756-8000 RLP:prp
Date: November 5, 2001
Facsimile: (202) 756-8087

【書類名】 特許願

【整理番号】 NM99-01574

【提出日】 平成12年 9月29日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B60K 35/00

【発明の名称】 表示装置

【請求項の数】 6

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
社内

 【氏名】 広瀬 悟

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
社内

 【氏名】 渡辺 博司

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地 日産自動車株式会社
社内

 【氏名】 坂田 雅男

【特許出願人】

 【識別番号】 000003997

 【氏名又は名称】 日産自動車株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100083806

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 三好 秀和

 【電話番号】 03-3504-3075

【選任した代理人】

 【識別番号】 100068342

【弁理士】

【氏名又は名称】 三好 保男

【選任した代理人】

【識別番号】 100100712

【弁理士】

【氏名又は名称】 岩▲崎▼ 幸邦

【選任した代理人】

【識別番号】 100087365

【弁理士】

【氏名又は名称】 栗原 彰

【選任した代理人】

【識別番号】 100079946

【弁理士】

【氏名又は名称】 横屋 越夫

【選任した代理人】

【識別番号】 100100929

【弁理士】

【氏名又は名称】 川又 澄雄

【選任した代理人】

【識別番号】 100095500

【弁理士】

【氏名又は名称】 伊藤 正和

【選任した代理人】

【識別番号】 100101247

【弁理士】

【氏名又は名称】 高橋 俊一

【選任した代理人】

【識別番号】 100098327

【弁理士】

【氏名又は名称】 高松 俊雄

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 001982

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9707400

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 表示装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 光源と、表示しようとする画像信号を出力する画像生成手段と、前記画像生成手段の出力する画像信号により、前記光源からの光を加工し、所定の曲面のスクリーンに画像を投影する画像投影手段とを備え、

前記画像投影手段は、投影画像の光学系の収差形状を前記スクリーンの投影曲面の形状にほぼ一致させたことを特徴とする表示装置。

【請求項 2】 前記スクリーンの投影曲面の形状が、投影光学系の像面湾曲によるペッツバル (Petzval) 面と非点収差の子午的像面と球面的像面との間の曲面形状であることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 3】 前記投影光学系の歪曲収差が糸巻き型の場合は、前記投影光学系に対して凸面の投影面とし、前記投影光学系の歪曲収差が樽型の場合は、前記投影光学系に対して凹面の投影面としたことを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 4】 前記画像投影手段は、前記画像生成手段の出力する画像信号を、投影前の時点であらかじめ変形させる加工を行い、結果的に前記投影光学系の収差形状を前記スクリーンの投影曲面の形状にほぼ一致させることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 5】 前記スクリーンの表面形状は、当該装置の組み込まれている支持部材を含めた周囲の部材と意匠的に連続するものであることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【請求項 6】 前記スクリーンは複数の投影区画に分けられ、それぞれの投影区画は対象看者の方向を向く配置にし、前記画像投影手段は、それぞれの投影区画に個別の表示情報を投影させることを特徴とする請求項 1 に記載の表示装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、文字情報、画像、映像等の種々の情報を表示する表示装置に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、車両用の表示装置として特開平6-262964号公報に記載されたようなものが知られている。この従来の表示装置は、立体感のある表示を行うことを目的とし、投影器からの表示情報が投影されるスクリーンを球面状、楕円曲面状、あるいは表面が凹面となる曲面形状にするようにしている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、このような従来の表示装置の場合、投影器からは平面状のスクリーンに投影するための投影光が射出されるだけであり、配置スペースを小さくするために投影器とスクリーンとの間の距離を短くしようとすると、スクリーンの投影面が曲面形状であるために収束点が投影面と一致せず、スクリーンの投影画像が場所によってピントぼけしてしまい、鮮明な画像が表示できない問題点があった。

【0004】

これを解決するためには光学系を用いて補正すればよいのであるが、その場合には投影器とスクリーンとの間のスペースが小さすぎて必要なレンズが配置できないという問題が起こり、またそれが可能であってもレンズを必要とするために装置コストが高くなる問題点があった。

【0005】

本発明はこのような従来の問題点に鑑み、平面素子から表示情報を曲面形状のスクリーンに投影する表示装置にあって、複雑な光学系で収差補正を行わなくても投影画像の各部のピントがぼけず、鮮明な画像を投影することができ、装置の小形化、低コスト化が図れる表示装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

請求項1の発明の表示装置は、光源と、表示しようとする画像信号を出力する

画像生成手段と、前記画像生成手段の出力する画像信号により、前記光源からの光を加工し、所定の曲面のスクリーンに画像を投影する画像投影手段とを備え、前記画像投影手段は、投影画像の光学系の収差形状を前記スクリーンの投影曲面の形状にほぼ一致させたものである。

【 0 0 0 7 】

請求項 2 の発明は、請求項 1 の表示装置において、前記スクリーンの投影曲面の形状を、投影光学系の像面湾曲によるペッツバル (Petzval) 面と非点収差の子午的像面と球面的像面との間の曲面形状にしたものである。

【 0 0 0 8 】

請求項 3 の発明は、請求項 1 の表示装置において、前記投影光学系の歪曲収差が糸巻き型の場合は、前記投影光学系に対して凸面の投影面とし、前記投影光学系の歪曲収差が樽型の場合は、前記投影光学系に対して凹面の投影面としたものである。

【 0 0 0 9 】

請求項 4 の発明は、請求項 1 の表示装置において、前記画像投影手段は、前記画像生成手段の出力する画像信号を投影前の時点であらかじめ変形させる加工を行い、結果的に前記投影光学系の収差形状を前記スクリーンの投影曲面の形状にほぼ一致させるようにしたものである。

【 0 0 1 0 】

請求項 5 の発明は、請求項 1 の表示装置において、前記スクリーンの表面形状を、当該装置の組み込まれている支持部材を含めた周囲の部材と意匠的に連続するようにしたものである。

【 0 0 1 1 】

請求項 6 の発明は、請求項 1 の表示装置において、前記スクリーンは複数の投影区画に分けられ、それぞれの投影区画は対象看者の方向を向く配置にし、前記画像投影手段は、それぞれの投影区画に個別の表示情報を投影させるようにしたものである。

【 0 0 1 2 】

【発明の効果】

請求項 1 の発明の表示装置では、光源からの光を画像生成手段の出力する画像信号によって加工し、所定の曲面形状のスクリーンに画像を投影する。そしてこの光源からの光を画像信号によって加工する際に、スクリーンの投影曲面の形状に一致するように投影画像の光学系の収差形状を加工することにより、曲面形状のスクリーンに対して鮮明に初期の画像を投影させることができる。したがって、請求項 1 の発明によれば、複雑な曲面形状のスクリーンに対しても鮮明に画像を投影することができ、しかも光源とスクリーンとの間の小さなスペースに光学系の収差を補正するためのレンズ群を配置する必要をなくして、小型にしてコスト的にも低廉な装置を提供することができる。

【 0 0 1 3 】

請求項 2 の発明によれば、スクリーンの投影曲面の形状をほぼペッツバル面とすることにより、鮮明な画像の表示が可能である。

【 0 0 1 4 】

請求項 3 の発明によれば、投影光学系の歪曲収差を補正する光学系を簡略化しつつ、画像の歪みを補正することにより、投影光学系に対する曲面が凹面の場合は樽型、凸面の場合には糸巻き型とすることにより、画像歪みの補正を行うことができる。

【 0 0 1 5 】

請求項 4 の発明によれば、スクリーンの表示面でほとんど歪みのない画像を投影することができる。

【 0 0 1 6 】

請求項 5 の発明によれば、スクリーンの表面形状を当該表示装置の組み込まれている支持部材を含めた全体の形状が意匠を連続する形状にすることにより、その意匠性を高めることができる。

【 0 0 1 7 】

請求項 6 の発明によれば、スクリーンを複数の投影区画に分け、複数の投影区画を、例えば、助手席だけから見える向き、運転席だけから見える向き、運転席と助手席との両方から見える向きに設定し、それぞれの投影区画に個別に情報を表示するようにしたことにより、各向きの投影区画ごとにその対象看者にとって

必要な情報を見やすいように表示することができる。

【 0 0 1 8 】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を図に基づいて詳説する。図 1 ～図 3 に基づいて本発明の第 1 の実施の形態を説明する。図 1 に示すように、第 1 の実施の形態の表示装置 1 のスクリーン 2 の表面形状は、例えば、ラグビーボールに似たインストルメントパネル 3 に組み込まれていて、周囲の他の部材 4 やメータ部 5 と意匠的に連続するような外形状を持っている。この表面形状の連続性は、3 次元曲面を表す式（例えば、双曲放物面： $x^2/a^2 - y^2/b^2 = cz$ 、 $c \neq 0$ ）と実際の形状とのずれ量を評価関数として用いれば、定量的、客観的に連続性を評価することができる。このスクリーン 2 の形状は、場合によってはインパクトのあるデザインをねらって、スクリーン 2 の表面のみを多少出っ張らせたり、凹曲面状にすることもある。しかし、あくまでも意匠の連続性と調和性を考慮したものである。

【 0 0 1 9 】

図 2 及び図 3 は、第 1 の実施の形態の表示装置 1 の光学系の構成を示している。光源 2 0 は放電灯、ハロゲンランプなどである。この光源 2 0 からの光は放物面や楕円面の反射鏡 2 1 によって集光される。集光点付近には 3 原色分解部をなすカラー円板 2 2 が配置されている。このカラー円板 2 2 は R G B 3 原色のカラーフィルターで構成され、高速回転して光源 2 0 からの光を 3 原色に時間分割してその混色でカラー表示する。カラー表示方式には、図 4、図 5 に示すように、時間分割合成方式あるいはフィールドシーケンシャル方式を採用することもできる。例えば、光源 2 0 から後述する画像表示素子 3 0 へ色の付いた光を導出する方法として、図 4 に示すように 1 つの光源 2 0 から R、G、B の別々にフィルタ（光学素子 2 5）を介して、その光を時間的に合成することによって求める色の光を作り出したり、図 5 に示すように R 色の発光光源と G 色の発光光源と B 色の発光光源からの光を L E D やネオン管から発光させ、これらを時間的に制御して求める光を作るようにしてもよい。なお、光源 2 0、反射鏡 2 1、カラー円板（3 原色分解部）2 2 により 3 色発光光源部 2 3 を構成する。

【 0 0 2 0 】

インテグレータ 2 4 は、後述する画像表示素子 3 0 の表面で均一な明るさで、かつほぼ平行光となるようにカラー円板 2 2 から出てくる光を操作する光学素子であり、微小レンズがアレイ状になった平板で構成されている。このインテグレータ 2 4 からの光により、画像表示素子 3 0 の表面上に光源の実像を結ばせることができる。

【 0 0 2 1 】

画像表示素子 3 0 は反射性の DMD (Digital Micromirror Device)、透過性の TFT 液晶あるいは強誘電性液晶のような LCD で成り、画像制御部 1 9 によって画像データ 1 8 に応じて画像の各画素に応じた微小ミラー又は液晶セルをオン／オフすることにより、表示画像を生成する。なお、RGB 各色の微小ミラー又は液晶セルの ON 時間長さを加減することによって明るさ及び色が制御される。

【 0 0 2 2 】

画像データ 1 8 は、あらかじめスクリーン 2 の投影面の曲面形状に合わせて歪ませてある。例えば、スクリーン 2 の投影面の形状の逆変換で歪ませることにより、スクリーン 2 の曲面上でも直線を直線として表示することができる。

【 0 0 2 3 】

画像表示素子 3 0 からの画像光は、投影光学系 4 0 を構成する投影レンズ群を通過してスクリーン 2 の投影面に投影される。ここで、装置全体を小さくするため、投影レンズ群 4 0 とスクリーン 2 との間の距離は小さくしなければならず、逆に表示サイズは大きくしたいため、画角が大きくなる。これに伴い、投影画像の収差（つまり、実像となる結像点位置が、光軸からの距離が大きくなるにしたがって理想点から離れてしまう現象）は大きくなる。例えば、像面湾曲は、ペッツバル面 $z = D \cdot R \cdot y^2$ （略回転放物面）として求められる。ただし、 z は光軸方向の変位量、 D はレンズ材の屈折率や焦点距離等の光学特性で決まる係数、 R は投影光学系の射出ひとみから被投影面までの距離、 y は光軸に垂直な方向の座標である。

【 0 0 2 4 】

通常、投影器はこの収差を小さくするためにいろいろな光学レンズを組み合わせている。しかしながら、この収差は逆に曲面スクリーンには都合が良く、特に像面湾曲に対応した曲面のスクリーンでは、鮮明な画像が投影できる上、収差補正用の光学系を省略することもできる。この収差補正は、凸面凹面レンズの組み合わせ、レンズの焦点距離、レンズ材料（屈折率やアッベ数）、投影光学系の開口径の調整などによって行われるのであるが、そのような光学系が省略できるのである。したがって、機器の低コスト化、軽量化、省スペース化が実現できる。なお、投影光学系40にはこのようなレンズ群に代えて、同様の作用をなすミラー群を採用することもできる。

【0025】

スクリーン2は光偏向部材51、フィルタ52、光学膜53そして透明薄膜54から構成される。このスクリーン2における光偏向部材51は、投影光学系のレンズ群40からの光を限られた範囲に偏向（拡散）させるもので、光を拡散させるために表面がブラスト処理された透明プラスチック板や乳白色プラスチック板、拡散型液晶などが用いられる。また、2枚の透明ガラスやプラスチック板に紙などから成る拡散層を挟持したスクリーンでもよい。スクリーン2におけるフィルタ52は、光偏向部材51と看者60との間で、外来光の反射や映り込みを低減するためのものである。光偏向部材51のレンズ群40側の表面には光低反射特性の光学膜53が設けられている。この光学膜53は、投影光学系のレンズ群40からの光が装置内部で迷光となるのを防ぎ、また光偏向部材51の光の二重反射像を低減するためである。フィルタ52の看者側表面にも低反射特性の光学膜53が設けられている。

【0026】

スクリーン2における透明薄膜54は、傷や汚れを付きにくくするためのものであり、ハードコートあるいは撥水塗膜で成る。この透明薄膜54には、電磁ノイズを低減するためにITO膜（イットリウム酸化膜）などの透明で電気伝導性を有する薄膜をマルチコートにして設けてもよい。

【0027】

なお、スクリーン2に関しては、その曲率に応じて、透過率のピークが看者6

0の向きになるように、スクリーン2の外に取り付けるルーバー（図示せず）をスクリーン2の取付位置に応じて変化させたり、図6に示すように、投影光学系のレンズ群40と光偏向部材51との間に指向性変換用の微小プリズム群や回折現象を利用して偏向させるホログラムのような光学素子55を挿入してもよい。

【0028】

なお、上記の実施の形態ではスクリーン2の投影面の曲面形状は凸面（看者60側から見て）としたが、凹面、また平面と凹面若しくは凸面との複合曲面など、インストルメントパネル1の形状に応じて、その表面形状、曲率にマッチした曲面形状にすることができ、特に形状が限定されることはない。

【0029】

次に、上記の第1の実施の形態の表示装置の動作について説明する。本実施の形態の表示装置1は、図1に示したように、車両のインストルメントパネル3に組み込まれ、インストルメントパネル3の表面と意匠的に連続するように配慮されたスクリーン2に画像を投影表示させる。この場合、従来例で説明したように、画像データ18から画像制御部19によって平面画像として生成するのではなく、スクリーン2の投影面の曲面形状に対応してあらかじめ歪みが付与された画像を生成するので、実際に画像表示素子30からレンズ群40を通してスクリーン2に投影される画像がほぼ歪みのない平面画像となる。つまり、直線は直線に見え、正方形は正方形に見え、また円は円に見えるように、看者60にとって歪みのない画像を表示することができるのである。

【0030】

次に、本発明の第2の実施の形態を図7及び図8に基づいて説明する。第2の実施の形態の特徴は、スクリーン2の曲面形状に特徴を有している。

【0031】

すなわち、スクリーン2は図7（b）に示すように楕円曲面やそれに近い曲面形状とし、これをインストルメントパネルの左右中央部に設置するような場合、車両の助手席、運転席それぞれから見える範囲は自ずと限られたものとなる。つまり、助手席の看者60Aからはスクリーン2のA部は見ることができず、逆に運転席の看者60Bからはスクリーン2のB部は見るできない。そしてス

クリーン 2 の左右中央の C 部は両方の看者 6 0 A, 6 0 B から見る事ができる。そこで図 7 (a) に示すように、スクリーン 2 の投影面を左右で複数区画、ここでは 6 1 A ~ 6 1 E の 5 区画に区切り、図 8 に示すような情報を各区画に表示させるのである。

【 0 0 3 2 】

例えば、運転席の看者 6 0 B からのみ見える区画、スクリーン 2 の A 部の区画に対しては、運転に必要な情報で、助手席の人にはそれほど必要ではない情報、例えば車速 6 1 A、補助カメラの画像 6 1 B を表示する。そしてスクリーン 2 の C 部のように運転席からも助手席からも見える区画に対しては、運転者にも助手席の人にも必要な情報、例えば、ナビゲーション情報 6 1 C を表示する。そして助手席の看者 6 0 A からのみ見える B 部の区画に対しては、運転中には不要な情報、例えば、インターネット情報 6 1 D やテレビ画像 6 1 E を表示する。

【 0 0 3 3 】

これにより、患者の視点に応じて必要な情報を見やすい位置に表示することができることになる。

【 0 0 3 4 】

次に、本発明の第 3 の実施の形態を、図 9 に基づいて説明する。本実施の形態の表示装置は、スクリーン 2 にレンチキュラーレンズ 5 6 を 2 枚用いることにより、液晶シャッターのような眼鏡を用いなくても左右眼視差による立体表示を可能にしたものである。

【 0 0 3 5 】

図 9 において、投影光学系 4 0 に入力された画像光をビームスプリッター 2 6 に対して出力し、ビームスプリッター 2 6 をオン／オフさせることによって画像光を 2 画面に分割させる。すなわち、オンタイミング時の画像光はビームスプリッター 2 6 を透過してスクリーン 2 に 1 画面 7 0 - 1 の画像光として直接入射させる。そしてビームスプリッター 2 6 のオフタイミング時の画像光はビームスプリッター 2 6 で反射させて全反射ミラー 2 7 に入射させ、この全反射ミラー 2 7 で再反射させてスクリーン 2 にもう 1 画面 7 0 - 2 の画像光として入射させる。

【 0 0 3 6 】

スクリーン 2 は表裏 2 枚のレンチキュラーレンズ 5 6 とそれらの間の光拡散層 5 7 で構成されている。そこで、ビームスプリッター 2 6 から直接来る画像光による画面と全反射ミラー 2 7 に反射されて来る画像光による画面とが交互にスクリーン 2 に入射されることになり、看者 6 0 の左右眼 6 0 R, 6 0 L では左右眼視差をもった 2 画面 7 0 - R, 7 0 - L を見ることになり、立体画像が見られることになる。なお、立体画像の表示のためには、左右のそれぞれに専用の情報を異なる位置からスクリーン 2 へ投影するようにしてもよい。

【 0 0 3 7 】

これにより、本実施の形態の表示装置では、情報を立体的に表示できることになる。

【 0 0 3 8 】

次に、本発明の第 4 の実施の形態を図 1 0 に基づいて説明する。第 4 の実施の形態の表示装置は、凹面形状のスクリーン 2 を備えたフロントプロジェクション式を特徴としている。すなわち、図 2 及び図 3 に示した第 1 の実施の形態の表示装置に対して、凹曲面のスクリーン 2 に対して看者 6 0 と同じ表側から画像を投影する点が異なっている。その他の構成要素は第 1 の実施の形態と共通するので、第 1 の実施の形態と共通の符号を付して示してある。

【 0 0 3 9 】

本実施の形態にあっても、スクリーン 2 の凹曲面の形状に対応させて、画像制御部 1 9 によって画像データ 1 8 をあらかじめ歪ませる加工を行い、画像表示素子 3 0 にその画像を生成させ、投影光学系 4 0 を通してスクリーン 2 に投影させる。

【 0 0 4 0 】

これにより、フロントプロジェクション式の表示装置として比較的大画面の画像の全体をほとんど歪みなく、またピントぼけすることなく鮮明に表示することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 の実施の形態の表示装置をインストルメントパネルに設置した状

態を示す斜視図。

【図 2】

上記の実施の形態の光学系の構成を示すブロック図。

【図 3】

上記の実施の形態の機能構成を示すブロック図。

【図 4】

上記の実施の形態における 3 原色分解部の他の構成例のブロック図。

【図 5】

上記の実施の形態における 3 原色分解部のさらに別の構成例のブロック図。

【図 6】

上記の実施の形態におけるスクリーンの他の構造例の断面図。

【図 7】

本発明の第 2 の実施の形態におけるスクリーンの正面図及び平面図。

【図 8】

上記の第 2 の実施の形態におけるスクリーンの表示位置別の表示内容を例示した表。

【図 9】

本発明の第 3 の実施の形態におけるスクリーン部分の構成を示すブロック図。

【図 1 0】

本発明の第 4 の実施の形態の光学系の構成を示すブロック図。

【符号の説明】

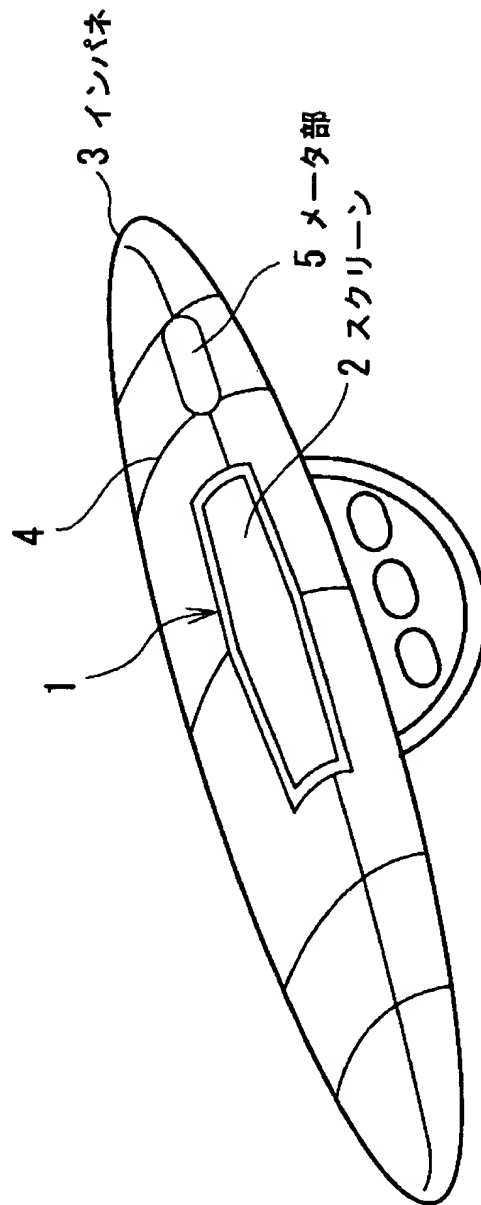
- 1 表示装置
- 2 スクリーン
- 3 インストルメントパネル
- 4 支持部材
- 1 8 画像データ
- 1 9 画像制御部
- 2 0 光源
- 2 2 3 原色分解部（カラー円板）

- 2 3 3 原色発光光源部
- 2 4 インテグレータ
- 2 5 光学素子
- 2 6 ビームスプリッタ
- 2 7 全反射ミラー
- 3 0 画像表示素子
- 4 0 投影光学系（レンズ群）
- 6 0 看者

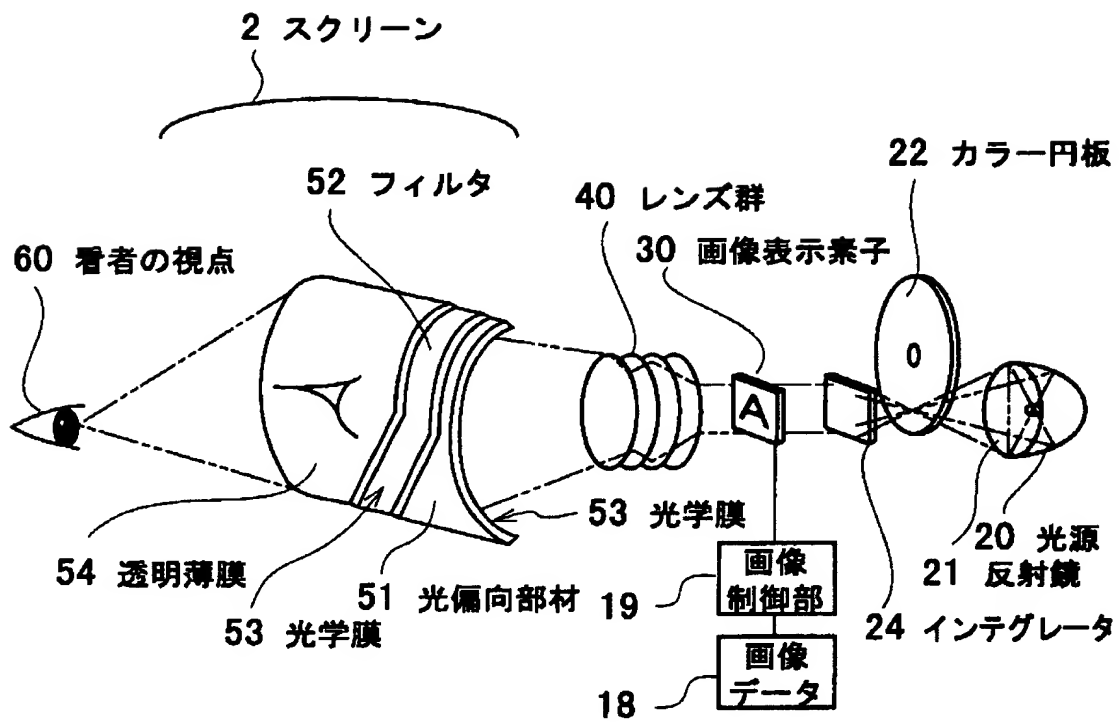
【書類名】

図面

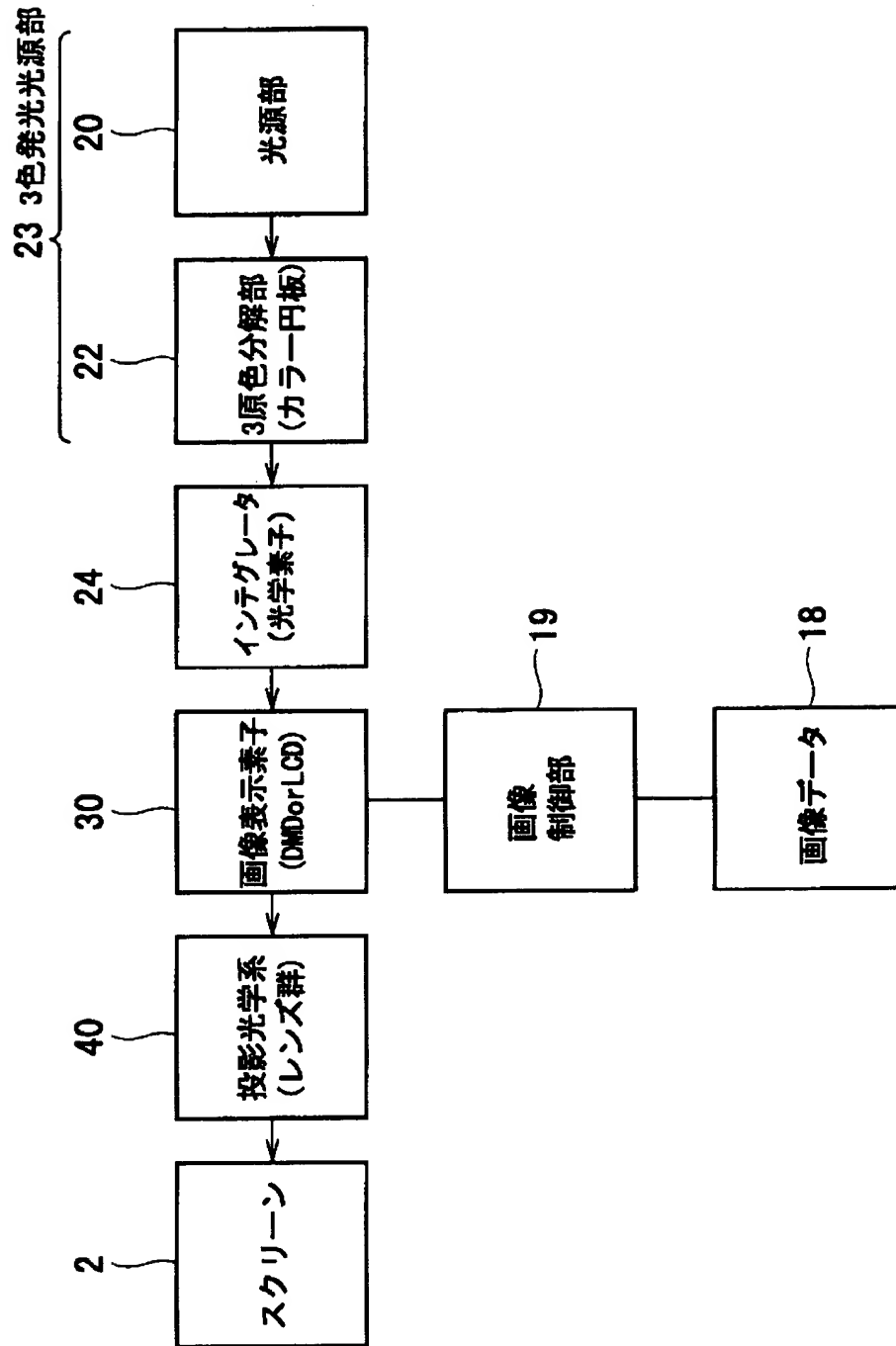
【図 1】



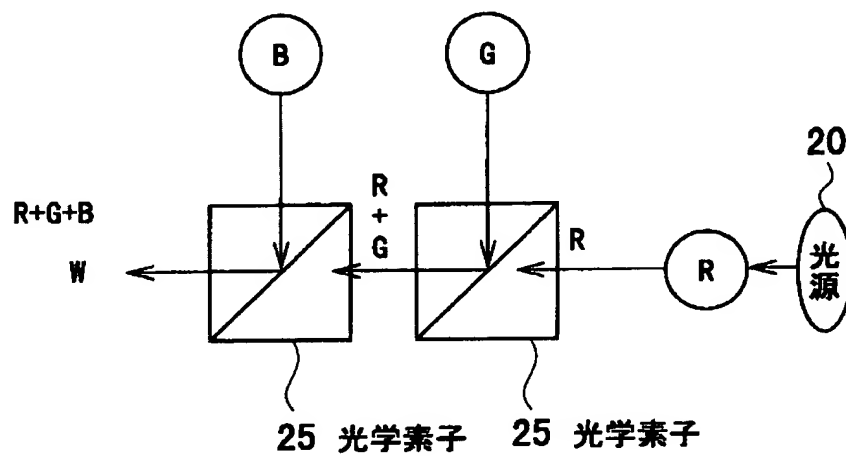
【図 2】



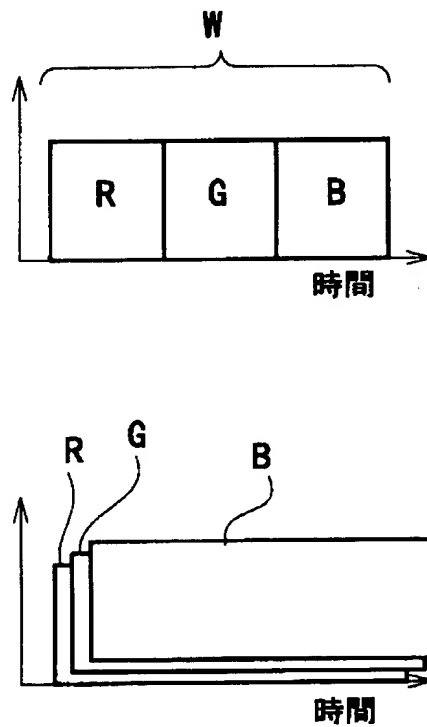
【図 3】



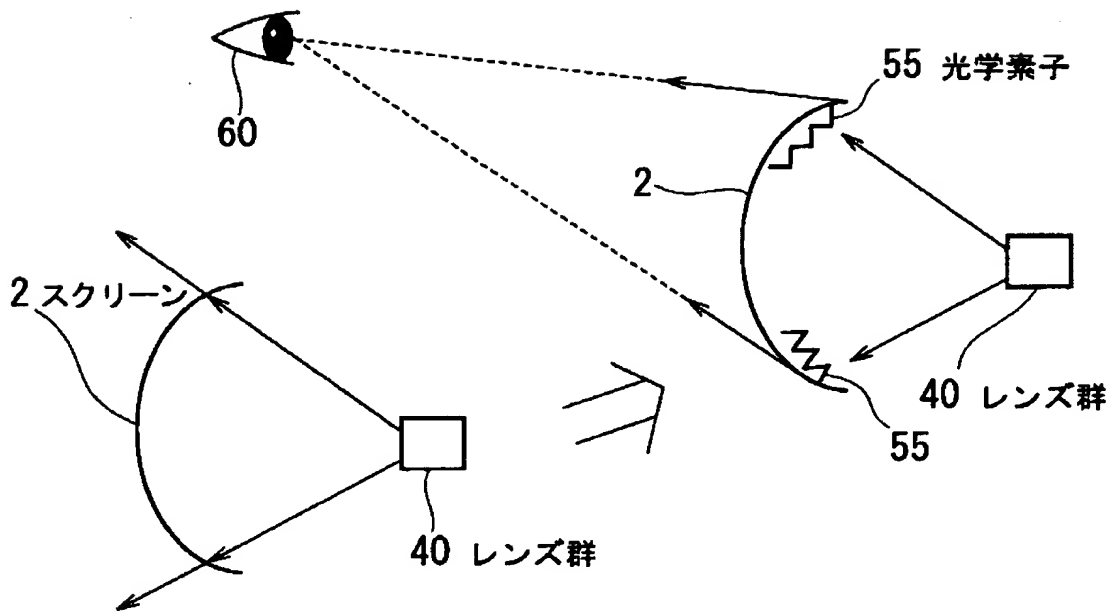
【図 4】



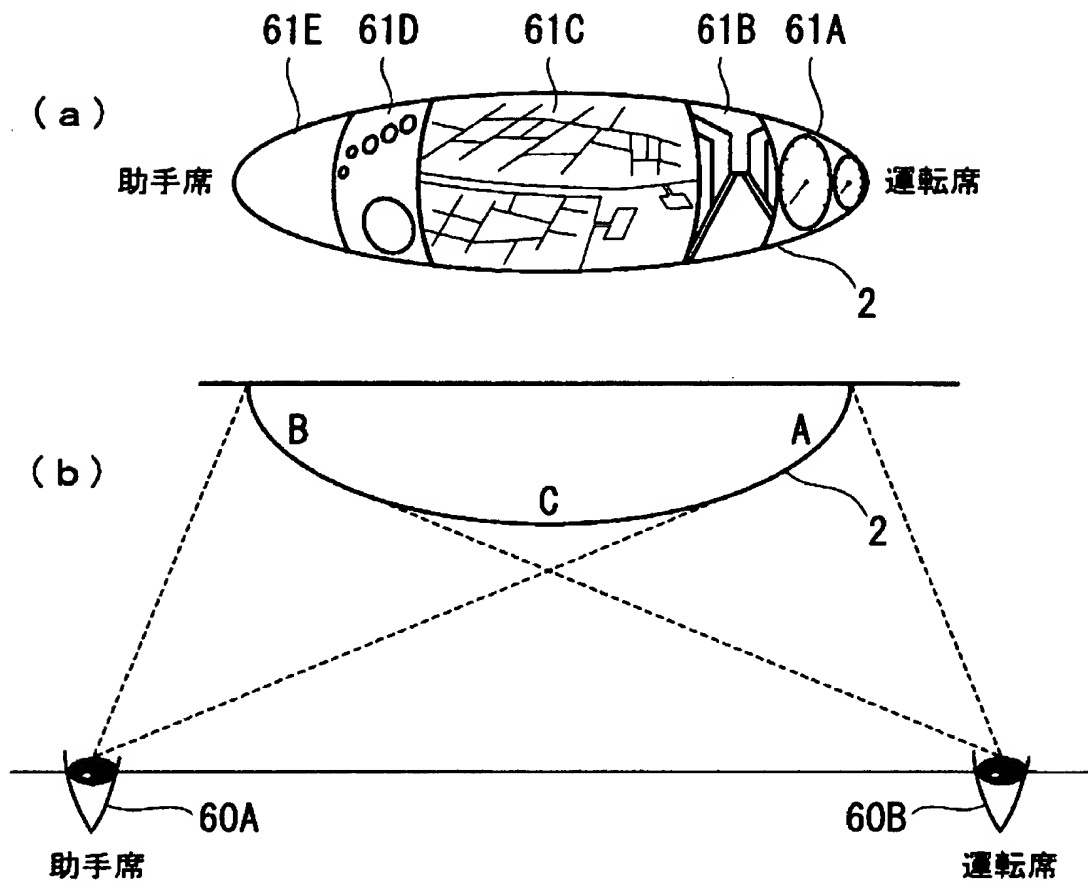
【図 5】



【図 6】



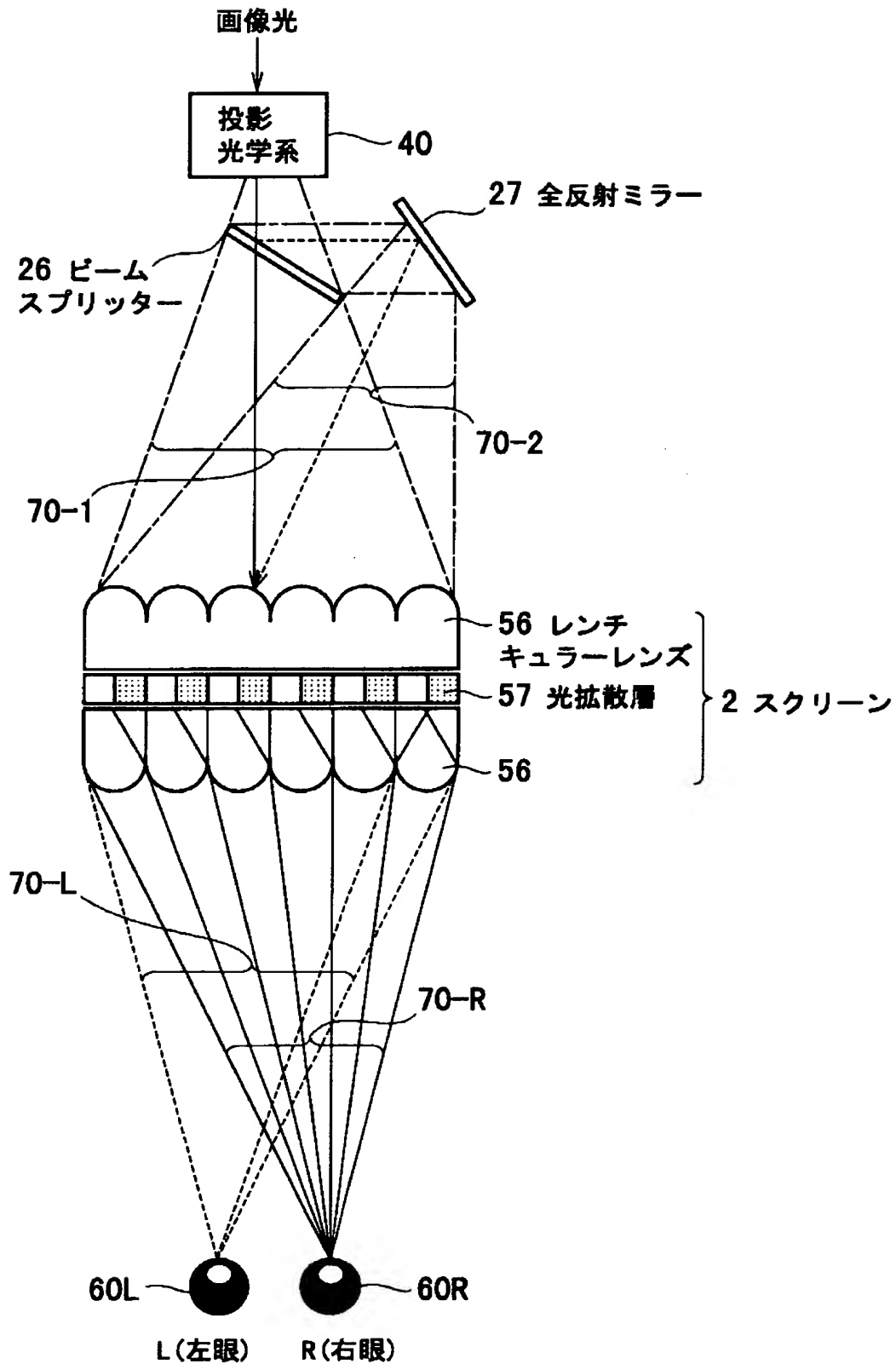
【図 7】



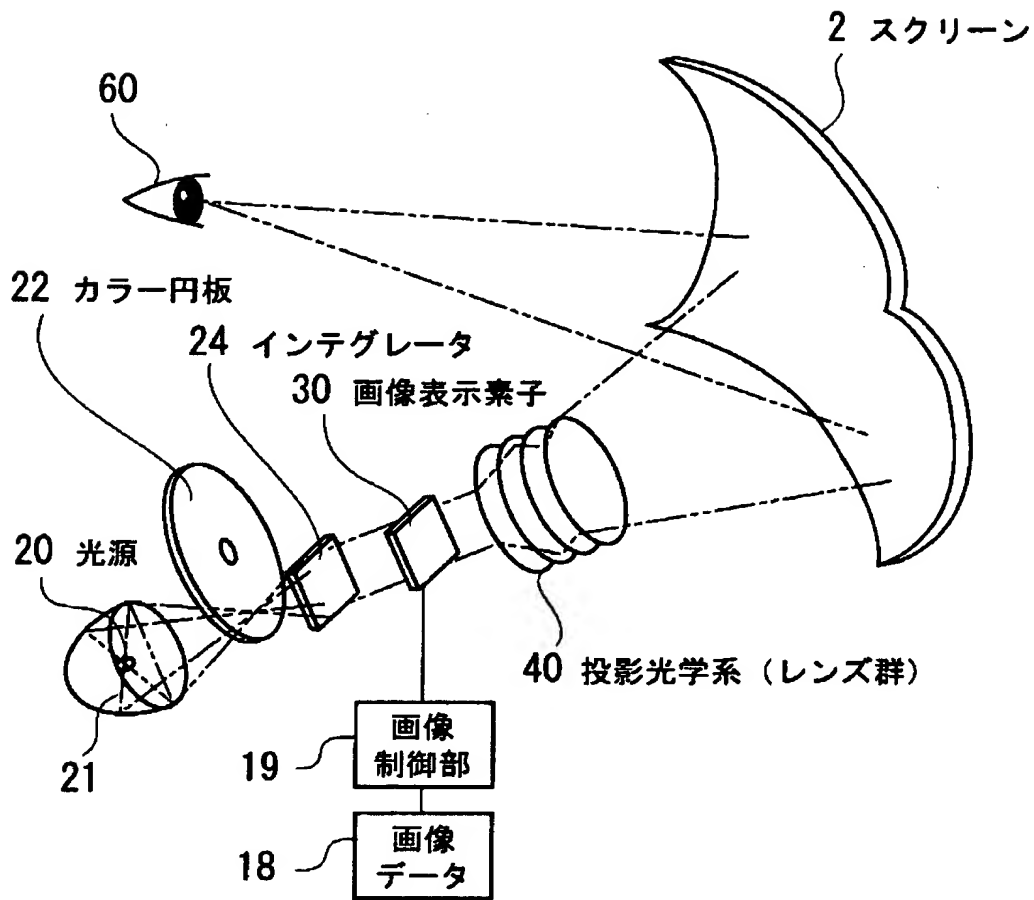
【図 8】

表示位置	情報カテゴリー	具体例
A	運転に必要な情報 助手席者には不要	車速、補助カメラ画像等
B	運転に不要な情報	TV、インターネット 各種詳細情報等
C	運転者、助手席者の 両方に役立つ情報	ナビゲーション等

【図 9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 平面素子から表示情報を曲面形状のスクリーンに投影する表示装置 1 にあって、複雑な光学系で収差補正を行わなくても投影画像の各部のピントがぼけず、鮮明な画像を投影できるようにして、装置の小形化、低コスト化を図る。

【解決手段】 画像表示素子 30 により光源部 23 からの光を画像制御部 19 の出力する画像信号によって加工し、所定の曲面形状のスクリーン 2 に投影する。そしてこの光源部からの光を画像信号によって加工する際に、画像制御部 19 によってスクリーン 2 の投影曲面の形状に一致するように投影画像の収差形状を加工することにより、曲面形状のスクリーンに対して鮮明に初期の画像を投影できるようにする。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000003997]

1. 変更年月日 1990年 8月31日

[変更理由] 新規登録

住 所 神奈川県横浜市神奈川区宝町2番地

氏 名 日産自動車株式会社



Creation date: 09-23-2003

Indexing Officer: TCHAKA - TEWODRES CHAKA

Team: OIPEBackFileIndexing

Dossier: 09963565

Legal Date: 03-08-2002

No.	Doccode	Number of pages
1	IDS	2
2	FOR	5

Total number of pages: 7

Remarks:

Order of re-scan issued on